

「進化」と「熟成」を重ね続け、次なるステージへ

1992年10月、世界最高峰のラリーレース、WRC（世界ラリー選手権）での勝利を目指した究極のラリーカーが誕生した。レースに有利なコンパクトなボディに、「名器」4G63型エンジンを搭載したそのラリーカー、「ランサーエボリューション」は、以後幾世代にもわたって進化と熟成を重ね、やがてWRCを制したチャンピオンカーとして、世界にその名を轟かすことになる。初代モデル誕生以来、15年間にわたって三菱自動車研が研ぎ澄ましてきた技術の粋を、今ここに振り返ってみよう。



1st-Generation

ドライブ トレイン

- VCU付センターデフ方式
フルタイム4WD+リヤVCU式LSD
- リヤ1.5WAY式LSD
- フロントVCU式LSD（オプション）

エンジン

- ナトリウム封入中空バルブ
- 大容量インタークーラー
- 空冷式オイルクーラー
- 吸排気バルブリフト量アップ
- マフラー排圧低減
- 圧縮比9.0へアップ
- 2次エア導入システム



ボディワーク

- アルミ製エンジンフード
- 大型リヤスポイラー



- 大型フロントバンパー
エクステンション
- 大型リヤスポイラー
- リヤウィッカー

- フロントバンパーエクステンション
- 大型サイドエアダム
- 大型リヤスポイラー&ウィンカー
- ブレーキ冷却エアダクト
- トランスファー冷却スリット



シャシー サスペンション ブレーキ タイヤ&ホイール

- マクファーソンストラット式独立懸架（フロント）/
マルチリンク式独立懸架サスペンション（リヤ）
- 2ポットキャリパー+15インチベンチレーテッドディスク（フロント）/
14インチディスク（リヤ）
- 195/55R15タイヤ&アルミホイール



- 205/60R15タイヤ&
OZ社製アルミホイール



1992~2007 「ランサーエボリューション」技術進化史



2nd-Generation

- AYC（アクティブ・
ヨーコントロールシステム）



- フロントヘリカルLSD

- ツインスクロールターボチャージャー
- 鍛造ピストン
- 4バルブシリンダーヘッドガasket
- 大口径エキゾーストパイプ



- ターボチャージャーの
ノズル面積拡大
- ピストン軽量化

- チタンアルミ合金製タービンホイール
- コンプレッサー入口径拡大
- クーリングチャンネル付ピストン
- 大型オイルクーラー採用



- デルタ型ウィッカー&大型スポイラー
- フロントエアダム
- サイドエアダム
- リヤエアダム



- デルタ型ウィッカー付アルミ製
仰角調整式リヤスポイラー
- アルミ製フロントフェンダー

- 新形状フロントエアロバンパー
- ウィッカー型仰角調整式
ツインリヤスポイラー



- マルチリンク式独立懸架サスペンション（リヤ）
- リヤアッパーフレームをアルミ鍛造化
- 16インチ/15インチ
ベンチレーテッドディスク（フロント/リヤ）
- 205/50R16タイヤ&
OZ社製アルミホイール



- フロント倒立式ストラット
- フロントロアアームをアルミ鍛造化
- Brembo社製17インチ・
対向4ポットキャリパー（フロント）/16インチ・
対向2ポットキャリパー（リヤ）
- 225/45ZR17タイヤ&OZ社製アルミホイール

- ロアアーム、トローリングアーム、
トランスアクスルアームをアルミ鍛造化
- OZ社製高剛性1ピースアルミホイール



- ターマック仕様サスペンション
- 225/45ZR17タイヤ&アルミホイール

